

金賞

保全って何だろう？

豊田合成 株式会社 森町工場

佐藤 樹

「保全って何だろう？」配属当時の私がまず感じた事です。

入社後、現場実習を経て保全業務を担当する製造技術課に配属され、右も左も分からない中、先輩の背中を追いかける日々が続きました。修理の際も何をすればいいのかわからず、先輩や技能員の方々に迷惑を掛けてしまうこともありました。現場で使われている設備や部品も使い方が分からないものも多く、自力では部品も探せない状況でした。何が安全で何が危険なのかも分からなかったのも、手も足も出せない状況でした。

「このままではまずい！」と感じ、分からないことは調べ、先輩に教えて貰うことで少しずつ知識を増やしていきました。そんな日々を過ごしていく内に自分の力で修理出来る内容も次第に増えていき、設備停止時間を短く修理することが出来て、不良減少にも貢献できるようになりました。その時、自力で直せたことに対する達成感や喜び、現場から感謝されたことの嬉しさを同時に感じ「やりがいがある仕事だな」と感じました。

保全の業務は修理だけではなく、トラブルが発生する前に未然に防ぐ予防保全があります。初めは設備状態の良し悪しがわからずにただ修理だけをしていました。そんな中で、修理や工事を通して設備と関わっていく内に、普段と違う箇所や異常が少しずつ分かる様になり、トラブルが発生する前に設備を修理することが出来るようになってきました。本来なら停止時間を増加させてしまう修理を未然に防げたことで、予防保全の重要性を知ることになりました。先輩や上司に予防保全の重要性を聞いたところ、理想の保全業務として、全体業務の30%が事後保全の修理であって、70%は修理を発生させないようにする予防保全や改善だと教えられました。私としては全体業務の大半が修理だと思っていましたので強く感銘を受け、予防保全の大切さを感じました。

保全員として過ごしていく内に「保全って何だろう？」と思っていた答えが、設備が故障しないように管理を実施していき、必要に応じた整備や修理を行うことで生産を維持させることだと考えるようになりました。

一人前の保全員になる為には経験や知識がまだまだ足りていないので、日々

研鑽を積み保全員として設備を守っていける存在になりたいと思います。そして、現場の方々と協力し合って「自分たちの設備は自分たちで守る」を合言葉に、一人の力では無く皆の力で、助け合い励まし合いながら技術を高めていきたいと思っています。